

## 高齢者施設における介護職員の虐待への認識と対応に関する調査 —高齢者施設における虐待予防に向けた実践的研修の開発に向けて—

○ 立正大学 土屋 典子 (4474)

副田 あけみ (関東学院大学・417)、長沼 葉月 (首都大学東京・7246)、松本葉子 (田園調布学園大学・7934)

キーワード：高齢者虐待予防、高齢者施設、介入研究

### 1. 研究目的

高齢者施設虐待に関する先行研究としては、1) 施設虐待の原因・背景に関する研究(岸・岩沢他 2010)や、2) 施設虐待防止研修プログラムの効果に関する研究(越谷 2006)などがある。また、それらの研究において施設虐待の予防には、職場環境、勤務体制、研修体制等の充実が不可欠なことも明らかになっている。しかし、介護職員の虐待への認識と対応のメカニズムを明らかにしたもの、また、具体的に必要とされる研修プログラムの提案や職場環境を改善するための方法、さらには、組織内の協働やコミュニケーションのあり方を検討した研究は管見の限りでは見当たらない。

そこで、本研究では、高齢者施設における介護職員の虐待に対する認識と対応を明らかにすることを目的とした調査を実施し、また、結果の分析を踏まえて虐待予防のために新しい実践アプローチを開発することとする。

### 2. 研究の視点および方法

芝野らによって開発された M-D&D に基づく実践アプローチの開発手法では、フェーズⅠ：問題の把握と分析、フェーズⅡ：たたき台のデザイン、フェーズⅢ：試行と改良、フェーズⅣ：普及と詠え、の順に研究を進めていくことが推奨されている。本報告は、この視点に基づき、フェーズⅠの高齢者施設における虐待という問題の把握と分析、およびフェーズⅡの実践に必要な研修プログラムの開発について取り上げるものとする。具体的には、フェーズⅠでは実践者へのヒアリング、文献研究、実践者への質問紙調を行う。フェーズⅡではフェーズⅠの結果から研修プログラムのたたき台をデザインする。

### 3. 倫理的配慮

フェーズⅠの質問紙調査は、目的・内容等を明記した依頼文を該当施設の管理職と職員に送付し説明を行い、同意を得られた介護職員にのみ調査に参加してもらった。データ収集方法・処理におけるプライバシー保護のための措置としては、調査結果はすべて統計的に処理し、個人の意見が特定されないようにした。尚、本調査は首都大学東京倫理委員会による承認を得ている。

## 4. 研究結果

フェーズⅠ：問題の把握と分析

### ①問題の把握

東京都内の複数の特別養護老人ホーム職員へ事前にヒアリングを行った。施設内虐待への対応および予防には、組織内の協働が不可欠であること、また、協働の仕組みが整備されても、職員同士の協働の方法が有効でなければ、職員は疲弊し、適切な対応や予防を行っていくことが困難となる。そこで、協働を促進する上でのコミュニケーション方法などの研修プログラムを開発する必要があることを確認した。

### ②質問紙調査の実施

本研究を進めるにあたり、施設虐待の実態に関する量的なデータ分析が不可欠であると考えた。そこで、関東圏内(東京都、埼玉県、神奈川県)の特別養護老人ホームに勤務する介護職員 500 名に対して、虐待の有無、虐待への認識・対応、組織内協働の実態等に関する自記式質問紙調査を、2012 年 12 月～2 月 2 日に実施した。回収数は 204 件 (41%) である。調査項目は、「基本的な属性」、「施設における虐待の有無」、「虐待への認識と対応」「職場内環境」「職場内人間関係」「職場内研修体制」等全 13 項目である。

調査結果より、介護職員が何をもち「虐待」ととらえるかの判断、また、その後の対応は虐待類型により異なり、これらの判断、およびその後の対応は、「職場環境」、「職場内関係」、「職場内研修体制」等に影響を受けていた。また、求められている研修プログラムとしては、組織内協働を促進するための職場内コミュニケーションの向上のための研修や、BPSD への対応等、具体的なスキル獲得のための研修であることも明らかとなった。

フェーズⅡ：たたき台のデザイン

フェーズⅠの結果を受け、高齢者施設虐待予防に必要なスキルを習得するための体験学習中心の研修プログラムの開発を行った。内容としては、高齢者虐待への理解を深めるための講義、組織内協働を円滑に行うためのコミュニケーションスキル習得を目的とするワーク、さらに、認知症利用者等への理解を深め、BPSD への具体的なスキル習得を目的とするワーク等で構成される。

## 5. 考察

フェーズⅠ、Ⅱより、高齢者施設における介護職員の虐待への認識と対応のメカニズムを明らかにすることができた。また、高齢者虐待予防のためには、研修体制の充実が不可欠であり、高齢者施設をバックアップする上での研究プログラムの開発及びその実施が急務であることも確認できた。今後は、フェーズⅢ(試行と改良)、フェーズⅣ(普及と詠え)の手順を踏み、高齢者施設職員等を対象とする研修を実施し、研修前後のアンケート、研修3か月後の質問紙調査の分析によって、研修の効果を明らかにする予定である。